

# もみじ園フォーラム 3年のあゆみ

—越路地域のみなさんとともに—



## 長岡大学地域連携ブックレット刊行にあたって



平成 31 年 3 月

長岡大学長 村山 光博

長岡大学は平成 13(2001)年の開学以来、建学の精神に「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」を掲げ、全学を挙げて大学改革に取り組んで参りました。また、平成 18(2006)年度以降は、文部科学省の大学教育改革補助事業に選定された次の各プログラムの事業計画に基づいて継続的に大学改革を推進し、「地域社会の発展に貢献する大学」を目指して地域を志向した教育・研究・社会貢献に取り組んでおります。

- 平成 18～20 年度 「産学融合型専門人材開発プログラム－長岡方式－」  
(現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 GP))
- 平成 19～21 年度 「学生による地域活性化提案プログラム」  
(現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代 GP))
- 平成 19～21 年度 「長岡地域産業活性化のための MOT 教育『イノベーション人材養成プログラム』」 (社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム)
- 平成 21～23 年度 「学生の 3 つの就職力一体形成支援プログラム」(大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラム)
- 平成 25～29 年度 「長岡地域<創造人材>養成プログラム」  
(地(知)の拠点整備事業=大学 COC(Center Of Community)事業)

平成 25(2013)年度から平成 29(2017)年度までの 5 ヶ年計画で取り組んできた大学 COC 事業は、大学が自治体等と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めて地域コミュニティの中核的存在となり、地域コミュニティの再生・活性化の核=拠点となる大学へと、自ら改革することを支援する事業です。本学の「長岡地域<創造人材>養成プログラム」は、長岡市との連携の下で長岡地域の地域課題(産業活性化、社会課題解決、地域・コミュニティ活性化)と向き合い、課題解決・価値創造を担う専門的能力を身につけた学生・社会人=<創造人材>の養成を通して、それら 3 つの地域課題に応えることを目指して参りました。

なお、本学は平成 28(2016)年度から、政府の地方創生事業の一環である文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成 28～31 年度)にも参加大学として加わっています。

本ブックレットでは、長岡大学が取り組む地域を志向した教育・研究・社会貢献の各事業の中から、とくにその成果を地域社会へ還元すべきものを取り上げて、広く発信いたします。長岡大学は、これからも「地域社会の発展に貢献する大学」を目指して全学を挙げて取り組んで参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

★<創造人材 (Creative Talents)>とは、一般には専門的職業従事者(科学者等)を指しますが、<創造人材>が経済社会の発展、競争力の源泉になっていることも明らかにされています。本プログラムでは、長岡大学が経済経営系の大学であるという性格から、課題解決・価値創造を担うマネジメント系専門人材、起業家、政策づくり専門人材、地域活性化・まちづくり専門人材、ボランティア・リーダーなどがいわゆる<創造人材>であると考えております。

## はじめに



長岡大学教授 高橋治道

長岡大学は、平成 25 年度に「地（知）の拠点整備事業（COC）」に採択されて以来、長岡市内各地の皆さんと一緒に地域活性化を目指した活動に取り組んでおります。

そうした取り組みの一つとして平成 28 年度からは、越路観光協会様が毎年秋に「もみじ園」で開催されている「もみじ祭り」に合わせて、巴ヶ丘山荘において「もみじ園フォーラム」を開催してきました。

「もみじ園フォーラム」を開催するきっかけとなったのは、本学の特徴的な教育プログラムの一つである「学生による地域活性化プログラム」に私のゼミが参加し、その中で「もみじ園」を造った高橋九郎翁の人間像と業績を紹介する「高橋九郎マップ」を作り、地域の偉人として広める取り組みを行ったことにあります。

取組初年度であった平成 28 年度は、高橋九郎翁が生まれて 165 周年目であったことから、「高橋九郎翁生誕 165 周年 記念シンポジウム～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～」と銘打ち、本学の松本和明教授による講演「高橋九郎の足跡と活動」と越路地域のリーダーに参加いただいていたのパネルディスカッション「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」を開催しました。また、これに合わせて私のゼミ学生による「高橋九郎翁生誕 165 周年記念資料展」を行いました。

2 回目となる平成 29 年度は、講演「越路を創った先人たち」を前年に続き本学の松本和明教授が行うとともに、前年同様ゼミ生による資料展「越路を創った先人たち」を開催しました。さらにこの年からは、本学茶道部の協力を得て「もみじ茶会」を開きました。

3 回目となる平成 30 年度は、長岡工業高等専門学校佐藤公俊名誉教授から、講演「高橋九郎とウェッブ夫妻」を行っていただきました。高橋九郎翁の活躍が海外からも注目されていたことは越路地域ではあまり知られておらず、高橋九郎翁の活躍の偉大さを地域の人から知っていただく良い機会になったのではないかと考えます。これにあわせて本年も茶道部による「もみじ茶会」を開催し、庭のもみじを鑑賞しながら茶を楽しんでいただきました。また、高橋ゼミが神谷の「歴史・文化の会」様から依頼を受けて作成した「高橋九郎翁史蹟巡りマップ」と漫画「高橋九郎物語」の展示も併せて行いました。

3 回のいずれのフォーラムにおいても、多くの方々から関心を持ってご参加いただき、主催したものとして大変嬉しく思っております。最後になりましたが、開催に当たり、ご協力をいただいております越路観光協会様、越路もみじの会様、越路町商工会様、歴史・文化の会様、神谷地区の皆さま、長岡市様に深く感謝いたします。

なお、このもみじ園フォーラムは平成 30 年度をもって終了とし、今後はより広域に地域活性化に向けた取り組みを推進してまいります。引き続きご指導、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

# もみじ園フォーラム3年のあゆみ ー越路地域のみなさんとともにー

## 社会貢献としての地域活性化推進事業

少子高齢化の進行等による地域・コミュニティの人口減少（過疎化）傾向が拡大し、活力の低下が見られます。合併による広域化も加わって、長岡市内の各地域・コミュニティの活性化は、大きな課題となっています。

そこで本学では、平成28年度より、地元の地域活性化事業の推進に加え、市内各地域での活性化活動に取り組んできました。

本学の教育プログラムの一環である地域活性化プログラムの中で、高橋治道ゼミナールが取り組んできた「地域の文化と伝統をつなぐ」の活動がきっかけとなり、越路地域と共に活性化事業を推進することとなりました。

## I 「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～」

平成28年度、「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム」を開催しました。

高橋九郎翁は、越路神谷地区出身の大地主にして政治家・企業家で、地元の篤志家です。みなさんがよくご存知のもみじ園は、高橋九郎翁の別荘として造られたところです。

ちょうど生誕165周年という節目の年に当たり、何か記念になるものを開催したい、という地元の思いもあり、越路神谷地区、越路観光協会をはじめとする、越路地域との共催でシンポジウムを開催することとなりました。

## 「高橋九郎翁生誕165周年記念シンポジウム～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～」

日 時：平成28年11月6日(日)13:00～16:00

会 場：もみじ園（越路町朝日）

講 演：「高橋九郎の足跡と活動」 講師 長岡大学教授 松本 和明

パネルディスカッション：「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは！」

パネリスト（敬称略）

越路神谷区長

白井 湛

長岡市役所越路支所産業建設課課長

新保 浩一

越路もみじの会会長

廣川 篤

ながおか生活情報交流ねっと理事長

桑原 眞二

長岡大学教授

松本 和明

長岡大学高橋ゼミナール学生

今井 練

コーディネーター

長岡大学教授

高橋 治道



もみじ園



高橋九郎翁資料展

講師：長岡大学教授 松本 和明



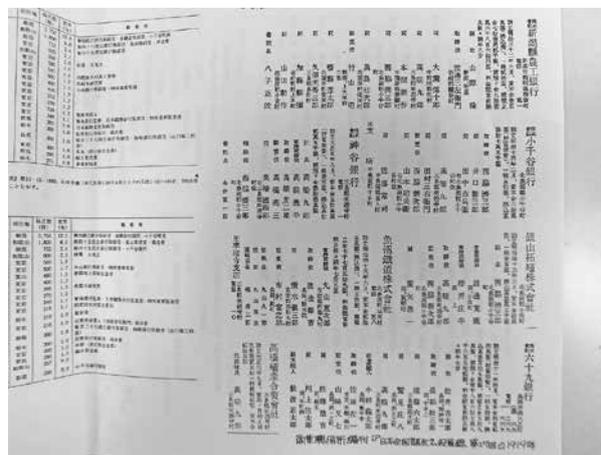
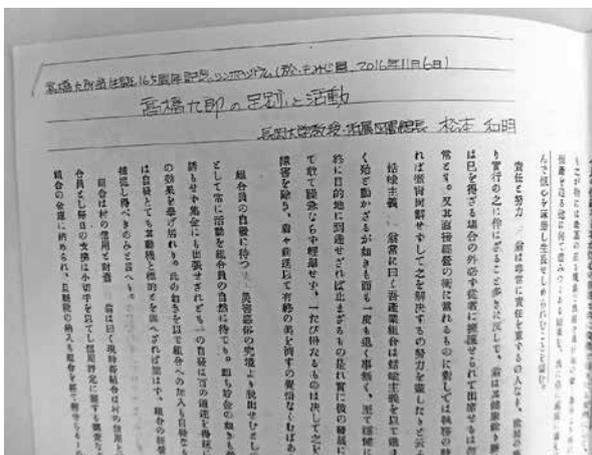
パネルディスカッション

資料展には、古い写真や資料を拡大して展示しました。珍しい写真や資料に、地元だけ  
知らなかった、遠くから足を運んできて良かった、などと説明の学生に声をかけてくださ  
る方も多く、学生も張り切って説明をしていました。

シンポジウムは約 50 名の参加を得て、講師の手作り資料と豊富な話題、時には笑いを誘  
う講演に、会場は和やかな空気に包まれていました。

パネルディスカッションには、実際に地元で地域の活性化に取り組んでいる方々、本学学  
生が参加し、活発な討論が繰り広げられ、参加者からも熱心な意見や要望などが出されま  
した。会場からのご質問、ご意見も多く、満員の会場は熱気に包まれました。

今後も地域の応援をいただき、地域と連携した取り組みを継続したいと考えております。



講演会資料：抜粋



高橋九郎翁  
生誕一六五周年記念 資料展

長岡大学  
高橋ゼミナール

：(出所：武藤喜一、『高橋九郎翁』、産業組合中央会新潟支会、1924)



創立当時の事務所



組合旗と木綿の組合員制服(羽織り)を着用された組合長。(大正2年1月撮影)

ウェブ夫妻の長岡調査と高橋九郎の神谷信用組合  
—日本のロッテデールパイオニアーズ、農協の源流—

(長岡工業高等専門学校) ○佐藤公俊

1. まえがき

本報告は、専攻科目目の「地域産業と技術」の授業項目の一つとしてとりまとめた、現地調査や資料による地域研究、ウェブ夫妻の長岡地域調査と高橋九郎氏の事業についての報告と考察である。狙いは、専攻科の学生たちが、長岡地域の歴史的、および社会的理解を深め、世界との関連に思いを馳せてくれることである。

1911年(明治44年)シドニー(1859-1947)とピアトリス(1858-1943)のウェブ夫妻は、世界調査旅行の途次、社会政策の調査のため来日し、長岡地域でも調査を行った。本報告は、長岡地域での高橋九郎氏(1850-1922)に対する夫妻の聞き取り調査、及び、夫妻と氏との交流関係に注目する。また、夫妻の調査の注目点となった、神谷(かみや)信用組合の設立準備以来の高橋九郎氏の地域社会への尽力と貢献の理念、および、氏を中心にして実現した神谷信用組合が信用組合形態をとるにいたった経緯と、それが今日の農協に発展した背景を検討する。特に、筆者の高橋家での聞き取り調査と資料調査を快諾しご協力くださった高橋九郎氏の孫の高橋健吉氏ご夫妻に感謝したい。

迎寺村高橋九郎氏を訪問し、同夜は同家に一泊し、一二日長野県を経て名古屋に向かう」ということであった。(宮本盛太郎(1989), p.37)



写真1:ウェブ夫妻<sup>2)</sup>

高橋九郎氏は、越路の神谷地区の大地主高橋家の当主で、温情的で開明的な篤農家で篤志家でもあった。氏は、明治初期の帝国議会の衆議院議員にも選ばれ、当時の産業組合法成立に注力し、地元では先進的な神谷信用組合の指導者であった。



創設当時のもみじ園

創設時は池があったことが分かる。

撮影時期不詳

展示資料：抜粋

◆アンケートは、この講演は「非常に参考になる」78.8%、「まあまあ参考になる」18.2%、パネルディスカッションは「非常に参考になった」66.7%、「まあまあ参考になった」27.3%、シンポジウム全体は「非常に評価できる」63.6%、「まあまあ評価できる」33.3%という結果でした。

★地域活性化に役立つと思われる提案

- ①偉人の小説、アニメ化
- ②高橋九郎活躍の足跡を尋ねるツアーを春、秋に計画されたい。  
もみじ園→来迎寺駅→信用組合跡→果樹園→松籟閣→螢庵等
- ③PRのパネルを銀行や駅、役所などにも提示して市民に知らせて欲しい。
- ④地域を発展させた偉大な人達をこれからもどんどん紹介して欲しい。
- ⑤企業、行政、地域（集落）で活性活動を実践されている内容（点）を面的に結び付けることで更に役立つと思われる。
- ⑥歴史が分かれば未来が見える。したがって地域の事を大いに住民に知ってもらう必要がある。今後とも歴史教育に力を注いでほしい。

★シンポジウムやフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ①高橋九郎の残した書類の読み解きと整理PR
- ②高橋九郎物語をコミックで作る
- ③地域ごとの歴史（人物）を順次取り上げてください。
- ④高橋九郎については、継続して交流会を行ってほしい。

注：高橋九郎物語をコミックで作るとのご提案は、平成30年11月、神谷地区の依頼で本学高橋ゼミ生が漫画「高橋九郎物語」を作成し、実現しました。また、神谷地区では、今後はそれをDVD化するということです。

高橋九郎先生 165 周年記念シンポジウムアンケート 2016.11.6 (日)

長岡大学 地域連携研究センター

※ 本日は、高橋九郎先生 165 周年記念シンポジウムにご参加いただきありがとうございます。皆様の感想をお寄せください。今後のフォーラム開催の参考にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

性別	1. 男 2. 女	年齢	1. 22歳未満 2. 22～30歳	3. 30歳代 4. 40歳代	5. 50歳代 6. 60歳以上
----	-----------	----	--------------------	-----------------	------------------

1. 「講演」は参考になりましたか。1つ□をつけてください。

1. 非常に参考になった	2. まあまあ参考になった	3. あまり参考にならなかった	4. 参考にならなかった	5. その他（ ）
--------------	---------------	-----------------	--------------	-----------

2. 「パネルディスカッション」は参考になりましたか。1つ□をつけてください。

1. 非常に参考になった	2. まあまあ参考になった	3. あまり参考にならなかった	4. 参考にならなかった	5. その他（ ）
--------------	---------------	-----------------	--------------	-----------

3. 今回のシンポジウムは全体としてどのくらい評価ができますか。1つ□をつけてください。

1. 非常に評価できる	2. まあまあ評価できる	3. あまり評価できない	4. 評価できない	5. その他（ ）
-------------	--------------	--------------	-----------	-----------

4. 地域の活性化に役立つと思われるご意見、ご提案などを具体的に記入ください。今後の活動の参考にさせていただきます。

5. 長岡大学のシンポジウムやフォーラムでとりあげたいと思うテーマ等ご希望がありましたら、ご自由にご記入ください。参考にさせていただきます。

※ありがとうございました。会場出口で職員にお渡しください。

アンケート用紙

平成28年度 長岡大学地(知)の拠点大学シンポジウム

# 高橋九郎翁生誕165周年 記念シンポジウム

～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～

平成28年  
とき **11月6日** 日 13:00～16:00  
場所 登録有形文化財 **もみじ園** (長岡市朝日600番地)  
定員 **先着50名 入場無料**

近年多くの観光客が訪れる“もみじ園”をひらいた高橋九郎翁の生き方は、地方の時代と言われる現代に生きる私たちに何かを語りかけてくれるのではないのでしょうか。“もみじ園”は、国の登録有形文化財に指定されました。  
なお、このシンポジウムは、長岡大学「地(知)の拠点大学地方創生推進事業(COC+)」として、地域の方々のご協力で開催するものです。

第1部/講演 13:00～14:00

「高橋九郎の足跡と活動」 講師：長岡大学教授 松本 和明

第2部/パネルディスカッション 14:30～16:00

「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは!」

〈パネリスト〉 越路神谷区長 白井 湛 氏  
長岡市役所越路支所産業建設課課長 新保 浩一 氏  
越路もみじの会会長 廣川 篤 氏  
ながおか生活情報交流ねっと理事長 桑原 真二 氏  
長岡大学教授 松本 和明  
長岡大学学生 高橋ゼミナール学生  
〈コーディネーター〉 長岡大学教授 高橋 治道

〈お申込〉

電話・FAXでお申込下さい。FAXでのお申込は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信してください。

TEL: 0258-39-1600(代)  
FAX: 0258-39-9566

長岡大学地域連携研究センター  
担当：小田原、山田

〒940-0828 長岡市御山町80-8  
<http://www.nagaokauiv.ac.jp>

■主催/長岡大学地域連携研究センター(企画・運営/長岡大学高橋治道ゼミナール) ■共催/越路観光協会  
■後援/長岡市、越路神谷区、歴史・文化の会、越路もみじの会、東北越銀行、JA越後さんとう

氏名			所属・会社等
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

## II 「越路歴史文化遺産もみじ園フォーラム」

平成 29 年度は、11 月 5 日(日)・11 日(土)に「越路歴史文化遺産もみじ園フォーラム」を開催しました。

### ■講演会

11 月 5 日に本学教授松本和明による講演会「越路を創った先人たち」を開催しました。

### 「越路歴史文化遺産 もみじ園フォーラム」

日 時：平成 29 年 11 月 5 日(日) 13:00～15:00

会 場：もみじ園（越路町朝日）

講 演：「越路を創った先人たち」 講師 長岡大学教授 松本 和明

当日は絶好の紅葉狩り日和で、もみじ園には多くの観光客が訪れていました。講演会の参加者は約 40 名でした。

講演後は、資料を余分に欲しいとおっしゃる方、もう少し話を聞きたいとおっしゃる方、参加者同士で話の続きをされる方など、様々な光景が見られました。



講師：長岡大学教授  
松本 和明



11/5 講演会

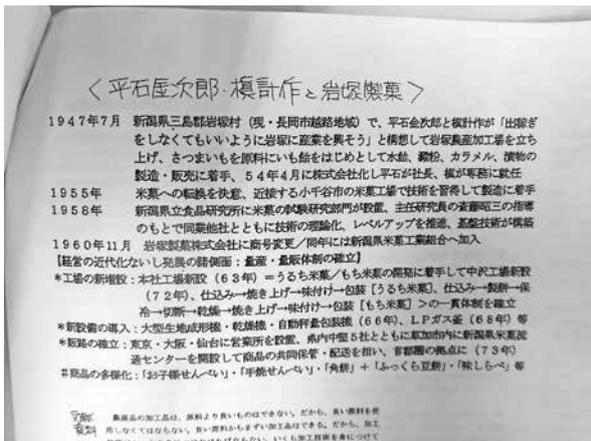


表1-1 設立発起人の引受株数および略歴

氏名	住所	引受株	主な略歴
山口権三郎	新潟県刈羽郡横沢村	16株	地主、金融会社（小千谷）発起人-取締役、新潟第四国立銀行取締役、兼議（改）、積産協会
山口政治	刈羽郡横沢村	1	山口権三郎の奥弟
牧口庄三郎	刈羽郡寛沢村	5	地主、岩俣車、岩俣銀行株主、兼議（明12.6~13.4）、積産協会
内藤久寛	刈羽郡石地村	2(8)	兼議（改）、積産協会
飯塚弥一郎	刈羽郡新津村	2	地主、第六十九国立銀行取締役、兼議（改）、積産協会
山田順一	刈羽郡上田沢村	2	地主、兼議（改）、積産協会、内藤久寛と従兄弟
大塚益郎	三島郡片貝村	2(8)	地主、酒造業、金融会社発起人-取締役、兼議（改）、積産協会、部の実弟
高橋九郎	三島郡宮川新田	2	地主、第六十九国立銀行取締役
広川荘二	三島郡東方村	2	地主、積産協会
久須美秀三郎	三島郡小島村	1(8)	地主、兼議（改）、積産協会、久須美三郎の子（序章参照）
遠藤亀太郎	三島郡野田村	2	地主、第六十九国立銀行発起人-取締役、兼議（改）、積産協会
山口万吉	吉志郡長岡町	3	商人、第六十九国立銀行発起人-取締役、兼議（改）、積産協会
渡辺清松	吉志郡長岡町	3	商人、第六十九国立銀行取締役
小林伝作	吉志郡長岡町	2	地主、商人、第六十九国立銀行取締役、積産協会
岸宇吉	吉志郡長岡町	2(8)	商人、第六十九国立銀行発起人-取締役、兼議（改）、積産協会
本間新彦	中蒲郡下新村	3(4)	地主、新潟第四国立銀行発起人-取締役、兼議（明12.4~13.4）

講演資料：抜粋

◆アンケートは、この講演は「非常に参考になった」64.0%、「まあまあ参考になった」36.0%。パネルディスカッションは「非常に楽しかった」60.0%、「まあまあ楽しかった」40.0%。シンポジウム全体は「非常に評価できる」64.0%、「まあまあ評価できる」36.0%という結果でした。

★地域活性化に役立つと思われる提案

- ①先駆的な先人方の生き方に触れる事、それが地域をいかに形成してきたのか、今をこれからを考える上でも大切な事と思いました
- ②歴史を知るとは未来を知ること。越路の歴史、大いに参考になりました。
- ③時代ごと人を見つける大切さを知った
- ④今回の内容のダイジェストを越路の地域民に知らせたい。
- ⑤もっと広い場所で行った方が、より多くの人に興味を持ってもらえると思います。

★シンポジウムやフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ①地域に根ざしたテーマ
- ②長岡の工作機械の歴史
- ③どんなジャンルでも、沢山やって欲しいです。

■資料展ともみじ茶会

11月11日は高橋ゼミ生による資料展と、地元の要望で、本学茶道部の協力を得て、もみじ茶会を開催しました。当日は霰も降る大荒れの天候でしたが、来場者数は80名を超えました。

資料展では、高橋九郎翁の業績などをまとめた写真や資料のパネルなどを展示しました。展示場所が廊下だったため、狭い空間での説明に、学生は少々苦勞したようでした。

もみじ茶会は、本格的な室礼と学生たちの点前、立ち居振る舞いに驚かれる方も多く、とても良いお席でした、とお声がけをいただきました。

地元からは、もみじ茶会だけではなく、桜茶会も開催して欲しいという要望が出ていますが、新入学時期の4月は、まだ茶道部の活動が活発化していない時期でもあり、未だ実現していません。

前年度のもみじ園フォーラムで行った「高橋九郎翁の資料展」が非常に好評であったことから、越路もみじの会や高橋九郎翁の地元神谷地区から展示資料の貸し出し要請があり、もみじの会へは春の観桜会に、神谷地区には秋のもみじ祭りの際に資料を貸し出したしました。



11/11 資料展



11/11 もみじ茶会

## 地域振興に尽力した

### たかはしくろう 高橋九郎

嘉永3年(1850)12月17日  
新潟県三島郡来迎寺村神谷生まれ  
大正9年(1922)9月21日没 享年73歳



三島郡来迎寺村神谷の割元高橋家の9代目の長男として生まれた。  
元治元年(1864)から明治2年(1869)年まで小千谷市片貝町の私塾「耕読堂」で、丸山貝陵から漢字を学んだ。翌年明治3年(1870)より来迎寺村浦の私塾「慈光齋」で旧岡藩校崇徳館都講木村鈍叟から漢字を学ぶ傍ら、幼時より優れていた数理能力で父業を助けた。  
明治13年(1880)、父高橋九郎右衛門の死去により家督を継承し、父名の九郎を継いだ。  
九郎翁は66歳で退隠するまで、一貫して地域振興に視座を置いて、篤農家・起業家・地方政治家としてその生涯を送った。  
幼少の時から、水害氾濫で農民が苦しんでいる姿を目撃し、水害氾濫を防ぎ、土地を改良開拓して田圃を増進することを常に考えていた。私費を投じての田の区画整理と暗渠排水の施設、共同育苗、気象旗による天気予報、繭や量表製造による副業の推奨、小作人表

長岡大学 もみじ園フォーラム

越路を

創った先人たち

企画 高橋浩道ゼミナール

## 岩塚製菓株式会社創業者

### ひらいしきんじろう 平石金次郎

明治43年(1910)2月  
岩塚村飯塚字十楽寺生れ  
平成13年(2001)11月没 享年91歳



平石金次郎 (1910～2001)

平石が生まれた当時の岩塚村飯塚字十楽寺は非常に農地の少ない地域であった。そのため、養蚕と出稼ぎで生計を維持する農家が多かった。桑畑は、戦時中に絹の輸出が不可能に近い状況になったこともあり、さつまいも畑へと転換されていった。  
終戦後、後日共同創業者となる芻頭の友の横計作と二人で、出稼ぎから脱却するには、岩塚に産業を興す必要があると強く念ずるようになっていた。  
二人はさつまいもから芋飴を作ることに着眼し、一年間の試行錯誤の後、昭和22年(1947)7月に岩塚農産加工工場を設立し、芋飴の生産を開始した。昭和24年(1949)には、カラメルの品質が全国的に認められ、東京で開かれた展示会で日本一となり、経営は順調に推移した。しかし、やがて大手企業の水飴生産が再開され始めるとコスト的にも品質的にも立ち行かなくなる状況が見え始めた。  
昭和29年(1954)4月に株式会社岩塚農産加工工場に改組し、社長に就任した(昭和50年(1975)5月からは代表取締役会長となった)。社長として奔走していたが厳しい経営状態は続いた。「これ以上続け

## 朝日酒造株式会社創業者

### ひらさわよのすけ 平澤與之助

明治18年11月2日  
三島郡来迎寺村朝日の久保田屋6代目  
2代平澤與三郎の長男として誕生  
昭和15年9月没 享年57歳



平澤家は、朝日村で地主経営をおこなう傍ら酒造業を展開していたが、天保元年(1830)に、次男の初代與三郎が4代目右衛門から酒造業を譲り受け、「久保田屋」として本格的に事業を推進した。  
與之助は、明治38年(1905)に長岡中学校を卒業後高田連隊に志願兵として1年間入隊した後に、家業に着手した。明治42年(1908)4月には、大蔵省の醸造試験所で講習生・研究生として最新の醸造技術の研鑽を深めた3歳年下の実弟順次郎(明治21年3月20日生)も加わり、兄弟で酒造りを行った。  
與之助は経営の近代化を推進し、弟の提案に従って醸造試験所が開発した新しい醸造方法である「山卸廃止醗の導入」や精米機の動力を水車から自家発電へと転換する(大正3年(1914))などした。さらに精麴法を研究するなどして品質の向上に努めた。  
そうした努力の結果、名古屋税務監督局管内の第2・3回の酒類品

平成29年度  
長岡大学地(知)の拠点大学フォーラム

越路歴史文化遺産

# もみじ園 フォーラム



会場 登録有形文化財 **もみじ園**  
(長岡市朝日600番地)

越路地域の発展に尽した  
先人たちに寄せて

越路地域の発展に尽した先人たちの業績に触れ、  
遺産でもあるもみじ園で地域の歴史・文化を見直し、  
地域の活性化を考えるフォーラムです。

なお、この事業は、長岡大学  
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」  
として、地域の方々のご協力で開催するものです。

- ◇主催：長岡大学地域連携研究センター  
(企画／運営：長岡大学高橋ゼミナール)
- ◇共催：長岡市、越路観光協会
- ◇後援：越路神谷区、歴史・文化の会、越路もみじの会、越路町商工会

11/5(日) 講演会

13:00 ~ 15:00 先着50名 入場無料

「越路を創った先人たち」

<講師> 長岡大学教授 松本 和明

11/11(土) 資料展  
もみじ茶会

10:00 ~ 16:00 入場無料

資料展「越路を創った先人たち」

<コーディネーター> 長岡大学教授 高橋 治道

10:30 ~ 15:00 先着150名 茶席券300円

もみじ茶会 長岡大学茶道部

<講話> 長岡大学茶道部指導 今井 憲子

<コーディネーター> 長岡大学教授 小川 幸代

※茶席券(300円)は、売店で販売いたします。

申込先

講演会は、電話・FAX・e-mailでお申込下さい。FAXでのお申込は、このチラシの下欄に記入し、下記のFAX番号に送信してください。

〒940-0828 長岡市御山町80-8 長岡大学地域連携研究センター 担当：山田、小田原

TEL:0258-39-1600(代) FAX:0258-39-9566 e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

氏名		所属・会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

### Ⅲ 「高橋九郎とウェッブ夫妻」

平成 30 年度は 11 月にもみじ園フォーラム「高橋九郎とウェッブ夫妻」を開催しました。

#### ■講演会と資料展

平成 28 年度、29 年度と地元の高橋九郎翁についての講演でしたが、平成 30 年度は、高橋九郎翁と親交のあった世界的な英国の社会学者であり統計学者である、シドニーとベアトリスのウェッブ夫妻をテーマに 11 月 17 日(土)講演会を開催しました。

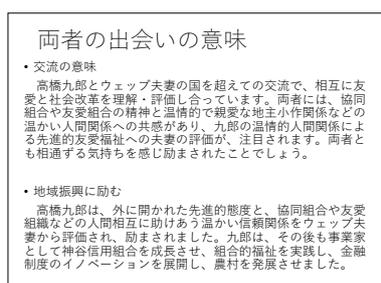
講師に長岡工業高等専門学校名誉教授 佐藤公俊氏を迎え、ウェッブ夫妻の業績、高橋九郎との交流、九郎の温情的地主経営や友愛組合の考え方等を高く評価したことなどについて、ご講演いただきました。

ウェッブ夫妻の神谷地区への訪問は、これまでほとんど知られていなかったこともあり、当日は定員を大幅に上回る 60 余名の方から参加いただき、講演後も、なぜ神谷信用組合を調査に訪れたのか、ウェッブ夫妻について等、非常にたくさんの質問が寄せられ、盛況な内に終えることができました。

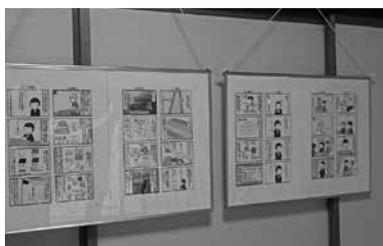
資料展では、高橋ゼミナールの学生作成の「高橋九郎翁史蹟巡りマップ」、漫画「高橋九郎物語」の紹介パネルを展示し、訪れた方々に学生たちが説明をしました。



11/17 講演会

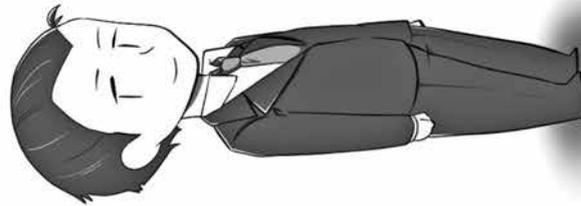


11/17 講演資料：抜粋



11/18 資料展

# 高橋九郎物語



< 1 話 >



< 2 話 >



< 6話 >

九郎は農業の発展のために  
生涯をかける事を決意

家業の株を分家に譲り、  
農業に全精力を注いだ

日本の国の基本である「農業」  
これを根幹とした「農業立国」  
を九郎は考えた

温室の構想

更には民生を安んずさせて、  
その上に立脚した工業化

稲作 + 副業

副業の構想もこの時、  
既にあつた

九郎が理想に達した  
言葉がある

「終身・林家・油国・平天下」  
天下を平らかに治めるには、  
まず自分の行いを正しくし、  
次に國を治めて、  
次に天下を平らかにする  
ような順序に扱うべきである。

現代日本に当てはまる  
考え方を、九郎は既に  
考えていたのである

< 5話 >

多忙の中 九郎は幼少期の  
経験から

農業の悩みや疑問 理想を  
常に考えていた

今までの薄給的な  
農業政策ではダメだな...

農民みんなが幸せになれる  
ような農業！近代的農業の  
増産をしなければ...

これが九郎の考えの根幹  
となり以後の行動の基盤  
となっていく

やるのなら中途半端は  
よくないな...

よし...!

< 4話 >

明治13年  
父死去

九郎は家督を継いだ

家業である医業を行い

薬屋

明治14年  
宮川外新田及びび津平の  
戸長となり、行政を行い

家業と行政の両立で

九郎は多忙であつた

< 3話 >

九郎が生家に戻り、  
学問に励んでいる頃

文明開花

戊辰戦争を経て  
明治の新時代となる

地、藩閥意識や藩閥制度などが大きく変わっていった

九郎は父の手伝いを行う中

「善徳園で郵務を務めた  
木村純豊に津村の私塾で  
師事して学を深めた

※善徳園...長岡藩藩校

任せなぞ

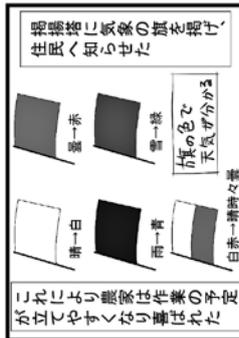
はい

明治11年  
小太区安持副大区長に任命  
される 九郎(この時28歳)

<10話>



なんと天気予報の実施である

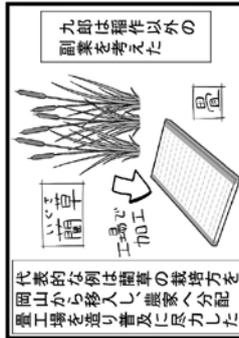


これにより農業は作業の手配が立てやすくなり進められた

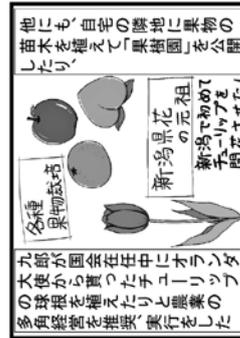


明治30年より40年間もラジオが普及するまで降雪時を除き1日も休まず続けられた

<9話>



代表的な例は、簡単な栽培方法を岡山から移入し、農家へ分配。工場を造り普及に尽力した



九郎が国会在任中にオランダ大使から贈ったチューリップの球根を運んだりも農業の多角経営を推進実行をした

<8話>

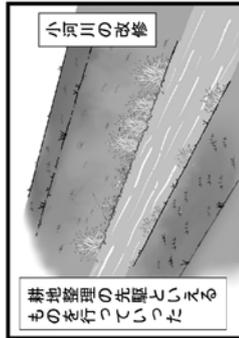


現在の農協のもととなるものを九郎は作り上げた



組合は現在「JA福地さんどうこう」に受け継がれている

<7話>



当時は珍しい測量機器を駆使しての測量は、人々に驚かれた

<14話>



明治37年、九郎が国委在任中、代議士鈴木素養よりある花の球根を買いました。



ある花：チーリップの根は当時珍しく、貴重でした。

この球根を信頼のおける水島義郎に譲りました。



球根を譲り受けた水島義郎は、神谷の自家の畑に植えました。愛情をもって育てたところ、

砂地の地質と相性が良く、花を夏前に開花させました。



今、チーリップは県花になりましたが、

その背景には高橋九郎と水島義郎の運搬と努力があったのです。

<13話>



明治29年、巴ヶ丘に高橋家の別荘を建設。



江戸末期に作られた桜ソメイヨシノに関心を寄せた九郎は、

新潟県で育たないものかと東京から苗木を運びました。



苗木は別荘に植えられ、着成に成功しこの地方のソメイヨシノ開花の先駆けになりました。



「この話が伝わり、悠久山に多くの苗木が移植され、後の名所となりました。」

<12話>



高橋九郎は政治にも精通しており、地域から国まで幅広く携わっていました。

1878年 第1次区小選挙区に当選  
1881年 宮川外務大臣選挙農村の戸長に選出  
1884年 源田外務大臣選挙  
1888年 源田外務大臣選挙  
1894年 第3回衆議院議員総選挙  
1898年 第4回衆議院議員総選挙  
1906年 衆議院議員  
1908年 衆議院議員



明治31年、第6回衆議院選挙で2度目の当選を果たしました。



明治35年2月、九郎は議員委員会に議院の重要性を説きました。

この働きがけは、同年8月に議院法の成立に繋がりました。



警察で医業にも精通していた九郎は、議院には専門の知識が重要だと知っていました。

その点にいち早く着目して、開業の専門性を法制化し、薬剤師の身分を確立しました。

<11話>



当時の農家には時計が無かった。

太陽と共に起き、晴れば耕し、曇雨のときは休むといった生活を送っていた。



そこで九郎は自宅の土蔵のうすに鐘樓を設けて

毎日午前11時、夜12時に鐘を鳴らして時を知らせた。



夜の鐘は主に農作業に出ている人達にお昼の準備を促すため

夜の鐘は遅くまで酒を飲んだりして遊んでいる男衆に備忘を促すため



明治15年から鐘は鳴り続け、昭和中期にサイレンに置き換え

当時の生活改善にも一役を買ったんだ

戦時中は敵愾と関連するので一時中断したが戦後復活し、今現在も毎日鳴り響き人々に時間を与えている

<18話>

九郎は他にも様々な分野に携わっていました。



日本石油会社の設立に関して建設協会に参画 設立発起人に名を連ねています。

また、民間病院の設立にも携わっていました。



病院設立にあたっては多くの医師が協賛していたが、九郎が有力な要人でした。

\*現・長岡赤十字学院

そこで石黒忠實に相談、創立時の医師の大井を紹介してもらいました。



人材を確保したことで病院は開院できました。

\*日本赤十字社社長

高橋九郎の存在が欠かせませんでした。



様々な分野の発展の裏には

<17話>

九郎の近代的・積極的な考えは当時取り組みを阻害していた。鉄道事業にも協賛を与えられた。



「建設協会の役割にまかす」といふ理由で

「この事業はもともと」

「九郎の協賛はもともと」

「九郎の協賛はもともと」

では... 米理寺を継由してはどうでしょうか。



米理寺を継由...とすると断をうけてしまったらどうかな

洲が恨んで居りますぞ

火の氣で焼かぬもいふ事になったらどうなるのですか?

米理寺も同業同士の「米」を継承区役です! 理にないで居たら...とすると米理寺ですかねえ

継承地帯ありましたが、九郎は当地の地元民を説得し、米理寺に断を切り、譲渡を理しました。



鉄道開通による米理寺地区の発展は目撃者として九郎の先見の明をうたっていました。

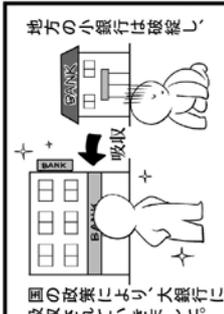
<16話>

昭和9年「後」に「昭和金融恐慌」と呼ばれる出来事が起こりました。



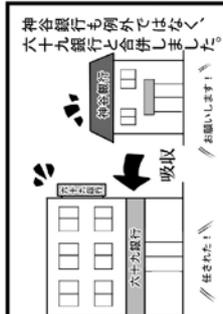
BANK

地方の小銀行は破綻し、



国の政策により、大銀行に吸収されていきました。

神谷銀行も例外ではなく、六十九銀行と合併しました。



合併いたします!

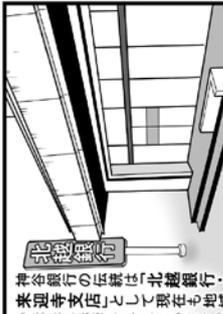
吸収

六十九銀行

神谷銀行

併せました!

神谷銀行の伝統は「北越銀行」菩提寺交番として現在も地域の発展に協賛を与えています。



北越銀行

<15話>

大正15年、地方の商工業の発展のため、金融機関として神谷銀行を設立しました。



九郎は第六十九国立銀行の取締役で発起人としての地位を確立していましたが、



地域のより一層の発展を考えての設立だったのです。

神谷銀行は当地域の主要産業であった陶糸へ資金供給を始めました。



主要産業に投資し、地方の金融の要となり、



昭和9年佳で圓満に発展していったのです。





高橋九郎翁史蹟巡りマップ

**【交通手段】**

■神谷  
電車：JR 信越本線 米迎寺駅下車徒歩 30 分  
バス：JR 長岡駅大手口バス停から急行・片貝  
経由小千谷車庫行きに乗車「浦」下車歩  
歩 15 分  
車：関越道長岡南越路スマート IC より 5 分

■もみじ園  
電車：JR 信越本線 米迎寺駅下車徒歩 10 分  
バス：JR 長岡駅大手口バス停から急行・片貝  
経由小千谷車庫行きに乗車「米迎寺駅  
前」下車徒歩 10 分  
車：関越道長岡南越路スマート IC より 5 分

発行 2018 年 11 月 11 日  
発行所 歴史・文化の会  
新潟県長岡市神谷 1 4 8 4-1  
Tel. 0258-92-2156

【高橋九郎翁史蹟巡りマップ制作メンバー】  
長岡大学 高橋ゼミナール  
青木真也、大沼彰太郎、佐藤達哉、佐藤晋  
高杉矢香、高山沙希、長谷川莉奈、深澤時海  
越路マップ制作担当  
高杉矢香、佐藤晋、高山沙希、長谷川莉奈  
もみじ園マップ制作担当  
高山沙希、青木真也、佐藤達哉  
神谷マップ制作担当  
高杉矢香、佐藤晋、高山沙希、長谷川莉奈  
監修 高橋治道

平成 30 年度 越路地域ふるさと創生基金事業  
※ 高橋九郎翁が遺した業績の顕彰を目的とした事業

## 高橋ゼミ生成成 「高橋九郎翁史蹟巡りマップ」



※歴史・文化の会の許可を得て掲載  
しております。

- ① 高橋家邸宅所在地  
導半村の荒れ地部分を高橋家の初代三蔵が開発し、この地に居住したと思われる。五代目九郎右衛門の時、隣接の宮川新田村へ居を移した。
- ② 船着場  
米迎寺村一帯の地主であった高橋家は、集めた米をここから船で運び出していた。
- ③ 時の鐘  
明治の頃、一般農家は時計が無く、高橋九郎が明治 16 年に自宅の屋上に約鐘を設け、1 日 2 回打ち鳴らして時を知らせた。
- ④⑤⑥ 果樹園、気象旗掲揚所、プラタナスの大樹  
果樹園：明治 30 年代、高橋九郎はこの場所に【果樹園】を作り、桃、柿などの苗木を植え、育つかどうかの試験栽培をした。  
気象旗掲揚所：明治 39 年から、新潟測候所より電報で気象情報をもらい、気象旗や警報標識を使って掲揚塔に掲げ、翌日の天気を知らせた。  
プラタナスの大樹：明治 30 年代、当時珍しいプラタナスの苗木を高橋九郎が手に入れ、この果樹園に 2 本植えた。樹齢は 100 年を超えている。
- ⑦ 高橋家報恩記念碑  
多方面に渡って神谷に貢献した高橋家への報恩の意味を込めて平成 21 年に建設された。
- ⑧ 旧米迎寺村役場  
明治 34 年、宮川外新田（現神谷）にあった創設当時の外新田校校舎が米迎寺村役場として使われた。その後、昭和 5 年に同じ神谷地区内に新庁舎が建築され、移転した。
- ⑨ 旧神谷信用組合  
明治 37 年、県下 2 番目の信用組合となる神谷信用組合が設立された。戦後農協に引き継がれ、その活動は協同に影響を与えた。
- ⑩ 第十六区小六区外新田校（旧神谷小学校）  
明治 6 年、近隣十ヶ村は公立の小学校を宮川外新田に設立した。その後数回の名称変更を経て、昭和 22 年に神谷小学校と改称された。昭和 41 年、越路小学校の開校に伴い閉校となった。
- ⑪ 新潟県チューリップ初開花場所  
この花園で、水島義郎が日本で初めてチューリップ栽培を成功させた。明治 37 年、高橋九郎を介して鈴木充美氏から 3 粒ほど球根を買い受けて栽培し、新潟県で初めて咲かせることができた。

- ① ツメヨシノ  
苗木を東京から取り寄せ、雪国でも育つかどうか試験的に植えたものである。今も春には見事な花が咲いている。
- ② イロハモミジ  
京都から取り寄せた 5 種類のもみじが植えられている。メインは、園中央と山荘脇のイロハモミジである。
- ③ バヶ丘山荘  
建築部材などから、明治 29 年から 30 年頃にかけて建築されたものと推察されている。2015 年に国登録有形文化財に登録された。
- ④ 石臼  
金鉱石を砕くための石臼。佐渡金山から金を運搬する際に、船のパラソルを保つための重石として用いられた。
- ⑤ 観音像  
設立当初のものは戦時中に供出されてしまい、台座だけが残っている。現在設置されている像は、第三代越路町長から寄贈されたものである。
- ⑥ 庭石  
新潟県では産出が確認されていない石であり、岐阜県あたりから輸送されてきたものではないかと推測される。

**もみじ園概要**  
平成元年 11 月にオープンしたもみじ園は、平成 27 年に国登録有形文化財に指定された。高橋家の別荘として利用されていたものが当時の越路町へ寄贈され、現在に至っている。  
敷地：4,000 ㎡  
建物：明治 29 年頃建築 木造平屋建て 庭園：日本庭園  
樹木：約 400 本（樹齢 150 年以上多数あり）

◆アンケートは、講演は参考になりましたかに対し、「非常に参考になった」64.7%、「まあまあ参考になった」35.3%。楽しんでいただけましたかに対し、「非常に楽しかった」52.9%、「まあまあ楽しかった」47.1%。評価できますかに対し、「非常に評価できる」58.8%、「まあまあ評価できる」41.2%という結果でした。

★地域活性化に役立つと思われる提案

- ①足下の歴史（偉人）を掘り下げ発掘して、子どもたちにつたえてゆくことが大切。
- ②農業県の高齢化対策

★シンポジウムやフォーラムで取り上げてほしいテーマ

- ①郷土が育む郷土の英雄（偉人はなぜ偉人になり得たのか？）
- ②活力ある住み良い街、長岡をめざすために役に立つ講演
- ③歴史と化学、歴史と数学、歴史と物理

■もみじ茶会

11月18日(日)は、本学茶道部による「もみじ茶会」を開催しました。

好天の中、「もみじ祭り」最終日ということもあり、朝から多くの方がもみじ園を訪れ、庭園内は人で溢れていました。もみじ鑑賞の傍ら立ち寄った方、お茶会を目的に来られた方など、110名を超える方がおいでくださいました。お茶の銘やお菓子の販売元についてなど、様々なご質問があり、「とても良い出会いがありました。」というような嬉しいお言葉も頂戴しました。

もみじ茶会は今後も継続したいと考えておりますので、引き続きご協力のほど、お願いいたします。



11/18 もみじ茶会

# 平成30年度 もみじ園フォーラム

～高橋九郎とウェッブ夫妻～

越路地域の遺産でもあるもみじ園で地域の歴史・文化を見直し、地域の活性化を考えるフォーラムです。

高橋九郎は、旧三島郡来迎寺・神谷地区一帯の大地主・政治家・企業家で、もみじ園の創設者です。神谷信用組合(現JA 越後さんとう)、神谷銀行(現北越銀行)等の設立、北越鉄道(現信越本線)等の敷設、長岡病院(現長岡赤十字病院)の開設など、多くの功績を残しています。

シドニーとビアトリスのウェッブ夫妻は、19世紀末20世紀にかけて活躍したイギリスの社会学者、経済学者で、明治44年(1911)世界調査旅行の途次、社会政策の調査のため来日し、神谷信用組合も視察。その際に高橋九郎との交流が生まれました。

## もみじ園

国登録有形文化財 巴ヶ丘もみじ公園

巴ヶ丘山荘 (長岡市朝日600番地)

11/17(土)

講演会 13:00～15:00

先着50名様/入場無料

### 「高橋九郎とウェッブ夫妻」

<講師>長岡工業高等専門学校名誉教授 佐藤 公俊氏

<コーディネーター>長岡大学教授 松本 和明

資料展  
10:00～15:00  
入場無料

### 「高橋九郎史蹟めぐりマップの紹介」

長岡大学高橋ゼミナール <コーディネーター>長岡大学教授 高橋 治道

11/18(日)

10:00～15:00

先着120名様/茶席券400円

### もみじ茶会 長岡大学茶道部

※茶席券(400円)

当日販売いたします。

<講話>長岡大学茶道部指導 今井 憲子

<コーディネーター>長岡大学教授 小川 幸代

■主催 長岡大学地域連携研究センター(企画/運営 長岡大学高橋ゼミナール)

■共催 長岡市、越路観光協会 ■後援 越路神谷区、歴史・文化の会、越路もみじの会、越路町商工会

講演会お申込  
その他お問い合わせ先

〒940-0828 長岡市御山町80-8 長岡大学地域連携研究センター 担当:山田、小田原

TEL:0258-39-1600(代) e-mail:chiken@nagaokauniv.ac.jp

FAXの方は下欄に記入してそのまま送信してください。

FAX:0258-39-9566

氏名	所属・会社等
住所・連絡先	
電話番号	F A X

※ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

※なお、この事業は、長岡大学「地(知)の拠点整備事業」(COC事業 平成25年度～平成29年度)の経統事業として、地域の方々のご協力で開催するものです。

# ブックレット既刊号のご案内

〈長岡大学ホームページ <http://www.nagaokauniv.ac.jp> でもご覧いただけます〉

1. 第5回 悠久山・東山フォーラム「悠久山の見どころ、撮りどころ」(平成 29 年度)
2. 悠久山いいとこ撮りまっぷ写真集 (平成 29 年度)

## 長岡大学地域連携ブックレット ③

【発行日】平成 31 年 3 月 28 日

【発行】長岡大学地域連携研究センター

〒940-0828 新潟県長岡市御山町 80-8

TEL. 0258(39)1600(代) FAX. 0258(39)9566

長岡大学 地(知)の拠点

平成28年度 長岡大学地(知)の拠点大学シンポジウム

## 高橋九郎翁生誕165周年 記念シンポジウム

～地域の発展に生涯を捧げた軌跡～

平成28年 **11月6日** 13:00～15:00

会場 豊後町文化財 **もみじ園** (豊後町歴史文化センター)

定員 先着50名 **入場無料**

近年多くの観光客が訪れる「もみじ園」をひらいた高橋九郎翁の軌跡を振り返るのには「あじふか」「もみじ園」は、頂の舞台。なお、このシンポジウムは、長岡大学「地(知)の拠点大学」で行うものです。

第1部/講演 13:00～14:00  
「高橋九郎の足跡と活動」 講師 長岡大学教授 松本 和明

第2部/パネルディスカッション 14:30～16:00  
「地方創生時代に九郎翁から学ぶことは？」

コーディネーター 長岡大学教授 高橋 浩

■会場: 長岡大学地域連携研究センター (会場・演者) ■会場: 長岡市、豊後町、歴史・文化の会、地(知)の拠点

申込先 長岡大学地域連携研究センター (会場・演者) 〒940-0026 長岡市山崎2-30-8 長岡大学地域連携研究センター TEL: 0258-39-1600(代) FAX: 0258-39-9566

住所: 〒940-0026 長岡市山崎2-30-8 長岡大学地域連携研究センター TEL: 0258-39-1600(代) FAX: 0258-39-9566



長岡大学 地(知)の拠点

平成29年度 長岡大学地(知)の拠点大学フォーラム

## 越路歴史文化遺産 もみじ園 フォーラム

会場 豊後町文化財 **もみじ園** (豊後町歴史文化センター)

11/5日 講演会  
「越路を創った先人たち」  
講師 長岡大学教授 松本 和明

11/11土 資料展 もみじ茶会

越路地域の発展に尽した先人たちに寄せて

越路地域の発展に尽した先人たちの足跡に敬意を込めて、越路でもっとも「地(知)の拠点」を創った先人たちの足跡を振り返る。越路の歴史をもう一度振り返ります。なお、このフォーラムは、長岡大学「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業「DCC+」として、地域の活性化に貢献するものです。

①長岡大学地域連携研究センター (会場・演者) ②会場: 長岡市、豊後町、歴史・文化の会、地(知)の拠点

申込先 長岡大学地域連携研究センター (会場・演者) 〒940-0026 長岡市山崎2-30-8 長岡大学地域連携研究センター TEL: 0258-39-1600(代) FAX: 0258-39-9566

住所: 〒940-0026 長岡市山崎2-30-8 長岡大学地域連携研究センター TEL: 0258-39-1600(代) FAX: 0258-39-9566

長岡大学 地(知)の拠点

平成30年度 もみじ園 フォーラム

～高橋九郎とウェッブ夫妻～

越路地域の遺産でもあるもみじ園で地域の歴史・文化を伝わり、地域の活性化を考えるフォーラムです。高橋九郎は、財・高橋米造寺・神谷地区一帯の大地主・政治家・企業家で、もみじ園の創設者です。神谷信地組合(現・八幡屋さんとう)、神谷銀行(現・北越銀行)等の設立、北越鉄道(現・越後本線)等の敷設、長岡病院(現・長岡赤十字病院)の創設など、多くの功績を残しています。シドニーとアトリスのウェッブ夫妻は、19世紀末20世紀にかけて活躍したイギリスの社会学者、経済学者で、明治44年(1911)世界調査旅行の途次、社会調査の調査のため来日し、神谷信地組合も現存。その間に高橋九郎との交流が生じました。

もみじ園 豊後町文化財 巴ヶ丘もみじ公園 巴ヶ丘山荘 (1949年開館) 600名収容

講演会 13:00～15:00 先着50名/入場無料  
「高橋九郎とウェッブ夫妻」  
講師 長岡大学山崎学問市民連携 教員 公使 義典  
コーディネーター 長岡大学教授 松本 和明

資料展 10:00～15:00 入場無料  
「高橋九郎史蹟めぐりマップの紹介」  
長岡大学高橋ゼミナール コーディネーター 山崎 浩典 長岡 浩典

もみじ茶会 10:00～15:00 先着120名/入場400円  
もみじ茶会 長岡大学茶道部  
主催 長岡大学茶道部 講師 今井 薫子  
コーディネーター 長岡大学教授 小川 幸代

■会場: 長岡大学地域連携研究センター (会場・演者) 長岡大学高橋ゼミナール  
■会場: 長岡市、神谷町、地(知)の拠点 ■会場: 長岡市、豊後町、歴史・文化の会、地(知)の拠点、地(知)の拠点、地(知)の拠点

申込先 〒940-0026 長岡市山崎2-30-8 長岡大学地域連携研究センター 電話: 山崎・小川 TEL: 0258-39-1600(代) e-mail: chiken@nagaokuniu.ac.jp FAX: 0258-39-9566

FAXの方は事前に記入してその場で提出してください。

住所: 〒940-0026 長岡市山崎2-30-8 長岡大学地域連携研究センター TEL: 0258-39-1600(代) FAX: 0258-39-9566

